＜自由テーマ部門＞

あなたの髪で社会貢献しませんか？愛教大ヘアドネーション大作戦

代表者　竹島百合香（心理コース・２年）他　学生２名

１．活動概要

〇ヘアドネーションとは

31 ㎝以上（団体により 15 ㎝以上）の髪の毛を寄付することである。寄付された髪の毛は脱毛症などで悩んでいる子どもたちのためのウィッグに加工され、無償で提供される。日本のヘアドネーション団体の中で有名な団体は大きく分けて３つほどある。髪の長さや状態など、受け付ける髪の毛の基準は団体で異なる。人毛のウィッグは肌に馴染みやすく、ばれにくいために比較的快適に過ごすことができると人気である。

（実際に寄付する髪の毛）

〇本企画の目的

目的は２つ挙げられる。１つ目はヘアドネーションのことを多くの愛教大生に知ってもらうことである。大学卒業後、多くの人が子どもたちに関わる仕事に就くであろう。髪の毛で悩んでいる子どもたちの存在や、ヘアドネーションで貢献ができることを伝えたいと考えた。また、今後関わる子どもたちにも伝えてほしいと思った。２つ目の目的は実際に髪の毛を寄付する人を愛教大生の中で募集し、その人に対して必要な物品を届けることである。ヘアドネーションに対するハードルを低くするため、応募者が「髪の毛を切って送る」だけにしたいと考え企画した。本企画では、大学生活の中で、成人式後に節目として、長い間伸ばした髪の毛を切る人が多いのではないかと予想し、１月をメインに活動を行った。

２．実施状況

〇宣伝活動

まずチラシを作成した。学内の図書館や第一福利施設、バス停の掲示板に掲示をした。チラシには各ヘアドネーション団体の髪の毛の基準や、寄付の流れについて載せた。さらにグーグルフォームで作った応募フォームを QR コードにして載せ、寄付の募集を呼び掛けた。

（ヘアドネーション募集用チラシ）

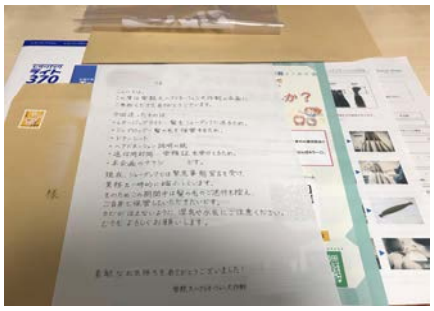
また、Twitter と Instagram を始め、ヘアドネーションのことや本企画の目的などについて投稿し、活動を広めた。匿名で質問が送れるシステムを利用し質問を受け付けたことで、不明な点が気軽に聞けた

と思われる。さらに各団体の最新情報を知ることができ、変更点がある場合はお知らせできたため、活動に役立てられたと感じる。コロナ禍の活動であったため、SNS での活動は大変意味のあるものであった。実際、寄付の希望者の半数以上が SNS を通じてこの企画を知ったようである。Twitter では主に愛教大生と、Instagram ではヘアドネーションを推進している大人と繋がることができ、活動をより良く進めることができた。二つの SNS を利用して、Twitter の方が情報の拡散をするためには向いていると感じた。投稿は文をなるべく短くし、分かりやすい文章を心掛けた。

（SNS に投稿した画像の一部）

〇必要物品の発送

応募してくださった方に必要な物品を送付した。当初は切った髪の毛を手渡しで回収し、メンバーが代わりにヘアドネーション団体に送ることを想定していた。しかし新型コロナウイルスの感染予防対策により不可能になったため、こちらから必要物品を応募者に届け、応募者自らが髪の毛を団体へ送って頂く方法に変更した。団体ごとで必要な物品は異なるため、どの団体に送る予定かを教えて頂いた。具体的に送付したものは、団体に髪の毛を送るためのレターパックや、髪の毛を保存するために使うジップ付き袋、髪の状態を書くヘアドネーションシートなどである。お届けした物の一覧を用途と共に紙に書いた。3 つのうち 1 つの団体は緊急事態宣言による業務の縮小のため、送付を控えるようにとお願いの文章が出されていた。そのためこの紙にも、髪の毛を切った後、緊急事態宣言が解除されるまでご自分で持っていて頂きたいということを記した。1 月中に 3 回締め切りを設け、応募があった順に発送した。



（1 名分の必要物品）

〇ヘアドネーションの実践

メンバー自らも成人式後に髪の毛を切り寄付をした。1 月下旬に、ヘアドネーション賛同美容院として登録されている刈谷市内の美容室で切ることとなった。ヘアドネーションカットという、細いゴムを使い髪の毛を事前にくくるヘアドネーション独自の方法がある。メジャーで測ったところ、31 cm以上あったため、32 cm取れる位置でくくって頂いた。最初のカットは自分自身でできることになり、緊張したが失敗せずに切ることができた。切って束ねられた髪の毛を持つと思ったよりも重く、先ほどまで自分の髪の毛であったことが不思議に感じられた。髪の毛をバッサリ切って寄付することで、子どもたちに貢献するだけでなくイメージチェンジもできるため、素敵なことであると考える。

（美容室でのヘアドネーションカット）

今回、活動を進めていく中で知り合った方に、髪を切る際中の映像を撮ると同時に取材もして頂いた。記録に残すことで、成人の良い思い出となった。

３．成果

締め切りまでに、メンバー2 名を除き、7

名の応募があった。その中で５名が２年生、2 名が 4 年生であった。応募フォームで、簡単なアンケートに答えて頂いた。意外だったことは、成人式が終わったために髪の毛を切ろうと思った人が０名であったことである。成人式後に髪の毛を切る人は少ないということが分かった。7 名全員が、ヘアドネーションに参加してみたかったからこの企画に参加したと回答した。また、4 年生の方が応募してくださったことに驚きと嬉しさを感じた。卒業に向けて髪の毛を整えるためではないかと予想する。成人式後に代わる、新たな可能性を感じることができた。

活動を通じ、さまざまなご縁があった。ヘアドネーションについての絵本を書かれた方と知り合うことができた。チラシ作成の際、まずは興味を持ってもらうために文字は少なくし、イラストを使うことなどのアドバイスを頂けた。また、ラジオサークルに取材をして頂き、活動のきっかけや目標についてお話することができた。より多くの愛教大生に本企画を広めることができたと思われる。本企画を始めなければ出会うことのなかったであろう方々と出会うことができ、世界が広がった。

４．今後の展望

初めての企画で、果たして応募が来るのか最初は不安であったが、結果的に７名もの方が賛同してくださったため、本企画は成功したと言える。コロナ禍により、成人式の延期があり、髪の毛が切れない人もいたであろう。活動に制限はあったものの、その中でどのようにすれば興味をもってもらえるか考えて行動することができた。

どれだけの人がヘアドネーションについて知ったかは、具体的には分からなかった。7 名の応募者は全員ヘアドネーションのことをあらかじめ知っていた。ヘアドネーションを知らない人が参加できるような方法を新たに考える必要があると感じた。

先ほども述べたように、4 年生の方が卒業前に髪の毛を切る場合もあると分かった。募集の時期を変えればより多くの方に応募して頂ける可能性があると考えた。

来年度以降活動するとすれば、ヘアドネーション団体の事務所に出向き、実際にウィッグを作る様子や、全国から届いた髪の毛を仕分けする様子を見学させて頂きたい。さらに代表の方に、なぜヘアドネーション団体を立ち上げようと思ったのか、どのようなときが大変であるかなどを取材して聞いてみたい。また、新型コロナウイルスが収束した際には、複数人募集をして断髪式を行いたいと考える。

本企画は多くの方に協力して頂いて成立させることができた。感謝の気持ちでいっぱいである。この場を借りて感謝申し上げる。

５．決算

予算：400,000 円, 残額：　389,608 円

費目	支出額
○　備品 （支出なし）	0 円
小　計	0 円
○　消耗品 ジップロック 角形 2 号封筒 長形 3 号封筒 レターパックライト×8 84 円切手×8 140 円切手×8 チラシ	 1,600 円 1,200 円 600 円 2,960 円 672 円 1,120 円 2,240 円
小　計	10,392 円
○　旅費 （支出なし）	0 円
小　計	0 円
○　謝金 （支出なし）	0 円
小　計	0 円
○　その他 （支出なし）	0 円
小　計	0 円
合　計	10,392 円

６．メンバー

番号	学年	氏名	所属
１	２年	竹島百合香	心理
２	２年	渡部真衣	心理
３	２年	犬飼惟沙	心理